

# 委託業務の概要

1. 業務名 令和 7 年度 中川町温泉宿泊施設改築工事基本設計委託業務

2. 委託期間 令和 7(2025 年)年 8 月下旬から令和 8 年(2026 年)3 月下旬までを予定

## 3. 敷地の概要

(1)所在地:中川町字中川 439 番地 1 の内

(2)敷地面積:2,150 m<sup>2</sup>

(3)都市計画区域等:都市計画区域外、建築基準法第 22 条区域内

(4)既存建築物:ポンピラアクアリズイング

(5)地勢: ア 計画敷地西側にはポンピラアクアリズイング(温泉付き宿泊施設)が建っており令和 11 年度以降に解体する予定である。

イ 敷地は平坦である。

ウ 洪水時浸水深は、0.5-1.0m である。(中川町ハザードマップによる)

4. 整備予算 2,000 百万円程度とし、コスト縮減に配慮する。

(電気・機械設備工事を含む。設計・調査費、既存施設解体工事及び外構工事を除く。)

## 5. 業務概要

(1)施設の概要 ア 用途:ホテル(温泉付き宿泊施設)

イ 規模及び構造 規 模:延べ面積 2,150 m<sup>2</sup>程度 2 階建て 構 造:問わない

(2)配置予定機能

|   | 主な機能            | 面積等                     | 備考   |
|---|-----------------|-------------------------|--|
| ① | 温浴施設(サウナ含む)     | 適宜                      | 詳細は、<br>ポンピラアクアリズニング改築に係る基本計画(令和 6 年度)を参照のこと |
| ② | 宿泊機能(客室 18 室)   | 適宜                      |  |
| ③ | ロビー、売店、情報発信スペース | 適宜                      |  |
| ④ | レストラン           | 適宜                      |  |
| 計 |                 | 2,000 m <sup>2</sup> 程度 |  |

## 技術提案を求めるテーマ

既存施設(ポンピラアクアリズイング)は平成5年に竣工し、道北地域の温泉付き公共宿泊施設として、観光及びビジネス客はもとより、地域住民にも親しまれてきましたが、施設の老朽化や多様な宿泊、観光ニーズに対応するための施設整備のあり方について検討し、令和6年度に「ポンピラアクアリズイング改築に係る基本計画」を策定しました。

当該計画では、基本方針として「中川のブランド力を向上させる、効率的かつ上質な滞在空間づくり」を定めるとともに、その実現のため次の戦略を掲げています。

戦略1 需要に合わせたコンパクトな機能構成

戦略2 地域のブランドイメージを高める魅力的な空間づくり

戦略3 隣接するナポートパーク(オートキャンプ場)との相乗効果を発現する施設づくり

これらの基本方針、3つの戦略等を踏まえた基本テーマ及び特定テーマは、次のとおりです。

|        |   |
|--------|---|
| 基本テーマ  | コンパクトで合理的な温泉付き宿泊施設のあり方  |
|        | 本事業では、近年の宿泊利用状況や今後の宿泊需要動向の見極めが難しいことなどを考慮し、コンパクトで合理的な機能構成とすることとしている。また、工事中にも営業継続が可能とするため、既存施設の東側への整備を想定している。<br>このことを踏まえ、本施設整備の基本的な考え方のほか、本施設の配置イメージと各階ゾーニングの考え方に関して提案すること。<br>また、「ポンピラアクアリズイング改築に係る基本計画」や(別添1)委託業務の概要の「6業務の進め方(予定)」を踏まえ、業務の実施方針を記述すること。                         |
| 特定テーマ① | なかがわの地域ブランドイメージを高め、新たな観光スタイルとの連携が期待できる魅力的な機能や空間の整備手法  |
|        | 近年、温浴施設では「サウナ」施設が注目されており、町民アンケートでもサウナや変わり湯などの設備の充実が求められていることから、本事業では特徴的なサウナを中心とした魅力ある温浴施設の整備を考えている。<br>また、町では観光振興戦略(R4～R8 年度)において、カヌーツーリングやサイクリングなどのアドベンチャートラベルや、ワーケーション、アウトドアといった新たな観光スタイルの推進に取り組むこととしている。<br>これらの背景を踏まえ、地域のブランドイメージを高める魅力ある施設空間と、既存施設解体後の跡地利用のあり方について提案すること。  |
| 特定テーマ② | 脱炭素に向けた効果的な手法   |
|        | 町では、令和4年にゼロカーボンシティを宣言し、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入や森林資源の適切な管理による二酸化炭素の吸収源対策など、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めていくこととしている。<br>本事業では、地域材(道産木材)の活用を図るとともに、建物の外壁、開口部などの外皮性能の強化、建築設備の効率化や容量、台数の適正化などのほか、昼光利用、日射熱の取得又は遮蔽などのパッシブデザインの導入も重要と考えている。<br>これらを踏まえ、効果的な脱炭素手法について、イニシャル、ランニングコストの縮減方策と併せて提案すること。 |